

活動ピックアップ!

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

長岡
みんなのSDGs

長岡
地域
Nagaoka

ASOBI.NIIGATA

光で新たな地域の魅力を発見!

4



公益財団法人 長岡社

誰もが希望する教育を受けられる社会へ



長岡市内の公園や公共施設で、暗闇の中でライトを動かし躍動感あふれる写真をみんなで作るライトペイント撮影会や、子どもから大人まで光を使った撮影を楽しめる体験会などのイベントを開催しています。また撮影した写真や撮影テクニックなどをSNSで発信中。これからも地域資源に光を当て、光アソビをしながら新たな視点で地域の魅力発信をしていきます。



経済的な事情により大学進学をあきらめざるを得ない若者を減らすため、東京都で長岡市出身の大学生向けに「長岡育英寮」を運営。メンバーが定期的に訪問して入寮生の相談に乗ることで、故郷から遠く離れた地でも安心して暮らせる環境づくりを心がけています。これからも米百俵の精神を継承し、まちや国に貢献できる人を一人でも多く輩出できるように活動を続けていきたいです。

市民活動

虎の巻



「解説動画」は
こちら!

研究テーマ

寄付につなげる!

～電子決済で支払いやすさの幅を広げよう編～

「寄付につなげる」徹底研究の第2回目。会費や寄付を受け取る時には、現金を直接もらったり、銀行振り込みを案内することが多いのでは。今回は、キャッシュレス支払いが増えている昨今、取り入れることで寄付者が支払いやすくなる、電子決済についてご紹介します。



シンプルに クレジット支払いに 対応するなら!

非営利活動に取り組む団体の会費や寄付募集をクレジット決済で行える寄付フォームには、単発の寄付だけでなく、毎月の継続寄付や会員の募集が可能な機能もあります。寄付フォームによって利用できるクレジットカードや、手数料、登録や入金にかかる日数など違いがあるので、自分たちに合ったものを選びましょう。

例えば

シンカブル
Syncable



コングラント
congrant



多様な支払い方法+ 支援者との コミュニケーション

クラウドファンディングのプラットフォームでは、単発支援だけでなく、継続寄付を募ることができます。クレジットカードや電子マネー、キャリア決済など多様な支払い方法があり、便利です。また活動内容の発信や、支援者との情報交換が可能なので、SNS感覚で楽しめます。

例えば

GoodMorning
(マンスリーサポーター)



レディフォー
READYFOR
(継続寄付)



※リンク先の内容は協働センターが保証するものではありません。それぞれの使用条件をご確認の上、ご活用ください。

センターからのお知らせ

市民活動の情報収集にどうぞ!

協働センターの情報・図書コーナー

協働センターには、市民活動団体のチラシ・パンフレット、支援情報や市民活動に役立つ書籍やDVDを設置しています。図書コーナーには、NPOの運営やファシリテーション、チラシのデザイン方法など活動の参考になる本がたくさんあります。貸出もしているので、ぜひ皆さんの活動にお役立てください!

本の
借り方

受付カウンターで、申込書に氏名・電話番号・住所等をご記入ください。その際、ご自宅の住所が確認できるもの(保険証、免許証など)をご提示いただきます。

- 貸出期間: 2週間 蔵書はリプライズにて確認できます。
- 貸出点数: 5点まで ※一部登録されていない図書もございます。



発行

ながおか
市民協働
センター

〒940-0062
長岡市大手通1丁目4番地10
シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel. 0258-39-2020
Mail. contact@nagaokakyodo.net



市民活動の
ポータルサイト



知る、つながる
好きになる
らこって



つながる
ラジオ



市民活動の
ポータルサイト
コライト

配布場所

長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

知る、つながる、好きになる
ながおか市民活動情報誌



地域も私もしあわせにする

寄付のカタチ

2023

1

vol.
121

Take Free

特集

地域も私もしあわせにする
寄付のカタチ

NAGAOKA PLAYERS

関愛さん

活動ピックアップ

ASOBI.NIIGATA

長岡みんなのSDGs

公益財団法人 長岡社

ながおか市民協働センター



地域も私もしあわせにする 寄付のカタチ

皆さんは「寄付」に、どのようなイメージをもっていますか。困っている人を助けること、誰かの夢や目標を応援すること、社会参加への一つの手段…何となく「社会にとって良いこと」というイメージをもっている、心のどこかで「経済的に余裕のある人がすること」「買い物と違って、お金を払っても何も手に入らない」「少額では意味がなさそう」と思っている方もいるのではないのでしょうか。今回は、こうした寄付のイメージについて考えます。

「寄付者＝裕福な人」とは限らない

2020年、日本では1年間で44.1%の人が寄付をし、その平均金額は37,657円、中央値は10,000円でした。皆さんは、多いと感じましたか。それとも少ないと感じましたか。世界的に見ると、日本は「寄付をしたか」という項目で119カ国中103位^{※1}。他の国々に比べると、寄付が根付いているとは言えない現状があります。その要因のひとつは、有名人による多額の寄付に関するニュースから「寄付は、経済的に余裕のある人がすること」というイメージをもっている方が少なくないからかもしれません。しかしデータを見ると、必ずしもそうでないことがわかります。冒頭で紹介した「寄付をしたか」というランキングで1位になった国は、インドネシア。何と5年連続で「最も人助けをする国」に選ばれており、84%の人が寄付をしたと回答しています。インドネシアの平均月収は2万6千円^{※2}で、これは日本の約12分の1^{※3}。国民の多くが信仰している宗教や、古くから根付いていた相互扶助の慣習の影響があると言われていたものの、「寄付は裕福な人がすること」とは一概には言えないのかもしれません。

寄付は個人の幸福度を上げる

「寄付＝社会にとって良いこと」というイメージをお持ちの方は多いと思いますが、寄付は寄付者自身にも良い影響をもたらすと言われています。人は、人を助けると気分が良くなると言われており、走った後に訪れる幸福感「ランナーズハイ」ならぬ「ヘルパーズハイ」という言葉があるほど。これは食べ物や快楽に反応し

て活性化する脳の領域が、人を助けるときにも反応するからです。またシカゴ大学ブース・オブ・スクール・ビジネスの研究結果によると、通常何かを得たことで感じられる喜びは回数を重ねるうちに減少しますが、人に何かを与えて得られる喜びは、自分で何かを得たときよりも長く続くそう^{※4}。寄付は、買い物のように目に見える対価を得られるものではありませんが、より長く続く幸福感を与えてくれるものだということがわかります。



NAGAOKA ウワサのあの人にインタビュー！ PLAYERS

めぐむ 関愛さん
37歳／高校非常勤講師／
教育コーディネーター
1985年長岡市三島生まれ。高校教員を経て、現在は非常勤講師として働く傍ら、フリーランスで学校教育や社会教育に関わる。



立場を変えることで見えた 次世代へつながる教育活動

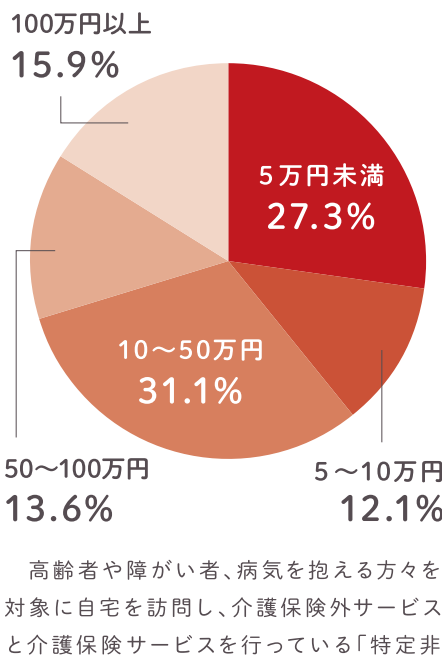
「今朝も玄関を開けると野菜のお裾分けが置いてありました」と、ご近所さんと顔が見える関係性の中で育った関愛さんは、地域とは違う視点を持つために留学や旅で文化や価値観の多様性にふれました。そこで気づいたのが育ってきた環境が当たり前でないことや相手を尊重しお互いが学び合うことの重要性だそ

うです。「地域に見守られながら育ち異文化を体験した私が教材になることで、子どもたちの学びにつなげることができると考えたので教員になりました」。自身の経験をもとに、地域の人や団体と協働した教育活動を進めていくために、学校の「外」とつながった学びの場づくりに挑戦。しかし、受験やテストで

少額寄付が力になる

寄付には、被災地への義援金・支援金や社会問題解決のための寄付、誰かのチャレンジを応援するクラウドファンディングと様々な種類がありますが、ここでご紹介したいのは、皆さんが住んでいる地域で活動している市民活動団体への寄付。長岡市には、地域活性化や子育て、障がい者福祉、環境保護など様々な分野で活動している市民活動団体がたくさんあり、協働センターには425団体^{※5}が登録されています。2019年に長岡市が行った調査によると、長岡市内で活動する任意団体の約27%が年間予算5万円未満^{※6}で活動しており、たとえ少額の寄付であっても団体にとって大きな力になることがわかります。

長岡市内で活動する任意団体の 年間活動予算



営利活動法人 ながおかたすけあいネット BEライフ」の原真知子さんは、2017年に寄付者と寄付を受ける人が直接顔を合わせるアイデアコンテストに参加。コンテストの受賞金5万円で法人のホームページを制作しました。「ホームページを立ち上げたいと思っていましたが、予算に余裕がないため費用を捻出できずにいました。受賞金をいただいたことで無事ホームページを作ることができ、ヘルパーさんを募集した際には『ホームページを見て、色々な世代の人たちが和気あいあいとした雰囲気^{※7}で活動しているのが素敵だと思って来ました』という方がいらっしゃいました」。また次の年には投票者としてアイデアコンテストに参加。その理由を原さんはこう語ります。「前年度にいただいた資金に対する感謝の気持ちを伝えたいと思いました。コンテストでは、他の方のアイデアを聞き刺激をいただきました」。



特定非営利活動法人
ながおかたすけあいネット
BEライフ
原真知子さん

寄付者と寄付を受ける団体が直接顔を合わせる機会は、このようなアイデアコンテストではありません。地域の市民活動団体であれば、直接イベントに足を運んだり、言葉を交わしたりすることで顔の見える関係性

を築き、安心してお金を託すことができます。寄付は地縁団体や共同募金会、日本赤十字社などに多く集まる傾向にあり、それは「寄付金の使い方が明確で、有効に使ってもらえること」を重視しているからだというデータも。地域で活動している団体に寄付する場合、自分の目で活動を見てから寄付でき、相手の喜ぶ顔を直接見られて喜びもひとしおではないでしょうか。

寄付は、寄付を受けた団体だけではなく、寄付をした人にもしあわせをもたらしてくれるもの。そしてその寄付は、寄付を受けた団体が支援している人たちのしあわせにつながり、「しあわせの連鎖」を生みます。それが私たちの地域で起こったら、経済状況や障がいの有無などに関わらず多くの人が笑顔で暮らせるまちになるのではないのでしょうか。まずはできる範囲で、寄付を始めてみませんか。

協働センターに登録されている団体の中から、「協力できること」と「協力してほしいこと」の公開を希望した団体のリストをご覧いただけます。

あなたの力を必要としている団体が見つかるかも！



※1 「寄付白書2021」日本ファンドレイジング協会
※2 「2022年世界寄付指数」チャリティエイド基金(CAF)
※3 「Rata-Rata Upah/Gaji Bersih Sebulan (rupiah) Buruh/Karyawan/Pegawai Menurut Provinsi dan Jenis Pekerjaan Utama, 2022」BADAN PUSAT STATISTIK
※4 「令和2年分 民間給与実態統計調査 - 調査結果報告 - 」国税庁
※5 「THE LITTLE BOOK OF LYKKE 人生を豊かにする『6つの宝物』」(マイク・ヴァイキング、2018年、三笠書房)
※6 Anna Mikulak, 2018, 「Joy of giving lasts longer than the joy of getting」
※7 2022年11月30日現在
※8 「ながおか市民協働センターの利用等に関するアンケート」(令和元年度)長岡市市民協働部市民協働課
※9 坂本治也, 2017, 「寄付に対する不安感と政治不信」

せるように。次世代へつながる関さんの活動に今後も期待したいです。



小学校への出前講座の様子。
ほかにも行政の職員研修や市民向けの講座を担うこともある。

の評価が重要視される学校教育の現実に、ジレンマも感じていたそうです。「理想と現実のギャップに悩み、思い切って教員を辞めました。学校の外から教育に関わることで、地域と学校をつなぐコーディネーターになろうと思いました」。教員を辞め外部講師として学校と関わるようになった関さんが、立場を変えたことで見えるようになったのが、目的を持った教育の大切さ。依頼を受けたときには、担当者や先生との打ち合わせを大事にすることで、その時間の「学習のねらい」を意識した授業やコーディネートを実践しているそうです。「現場にいたときと違う視点をもてた

ことで、より子どもたちの関心や先生の苦悩に目を向けることができるようになりました。『何のために』を大事にして、日々活動しています」。今後の展望は、地方だからできる困ったときに助け合えるコミュニティを創っていくこと。そのために関さんは、変化の激しい時代を生きる子どもたちに必要な力を育んでいく教育を実践していくそうです。「子どもの未来に選択の幅を増やしていきたいです。地域で学校教育を支えていける環境をつくり、子どもの学びを創るためにできることを地道に重ね、地域の未来に貢献していきたいです」。蒔いた種が素敵な花を咲か